

令和 6 年 第 4 回定例会一般質問

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	齋 藤 實	<p>1. U・I ターン就職奨励金制度について</p> <p>2. 避難所環境整備について</p>	<p>令和4年度より制度化したU・I ターン就職奨励金事業は3年が経過したので、当初計画どおり見直しを行うことで、本年6月の総務経済常任委員会に報告がありました。町内の移住、新規学生卒業者、就職者人口の確保にも良い結果があると報告を受け、課題については、早期退職者がいるとの内容で、令和7年度に向け、制度設計を行う説明を受けたところです。</p> <p>しかし、11月14日開催の総務経済常任委員会において、一定程度の事業評価をしながら、今後につながる見直しもせず、令和7年度をもって事業終了とする報告がありました。</p> <p>今、八雲町の大きな課題は人口減少であります。</p> <p>本事業は、移住・定住につながっており、雇用促進にもなっております。</p> <p>この制度を活用した利用者、事業者からも評価されている事業であり、町の財政問題での事業終了は理解できないことから、町長の考えを伺います。</p> <p>政府は臨時閣議で新たな経済対策を決定いたしました。</p> <p>経済対策の第3の柱に『国民の安心・安全の確保』があり、避難所環境の推進に向け、簡易ベッドの備蓄の促進やキッチンカーやトレーラーハウス・トイレトレーラーの登録制度の創設等、避難所環境の抜本的改善に取り組むことを決定しました。</p> <p>町において、この制度を活用する考えはあるのか町長の考えを伺います。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
2	三澤公雄	1. 選挙時の SNS の悪用を選管で防ぐことはできないのか？	<p>これまで選挙管理委員会は“投票率”を上げるために、様々な取り組みをやってきている。当然、これからは SNS を活用しての投票率向上策を模索するだろう…。</p> <p>であるならば、その SNS を活用して“正しい”選挙情報の提供もできる！と考えます。是非、今から検討して、来年行われる町長選挙・町議会議員選挙で SNS の悪用が繰り返されないようにしてほしい。いかがか？</p>	町長 選管委員長
		2. 健診率アップを目指して！！	<p>八雲町の死因の第1位は『がん』である。特に男性の死亡原因の41%を占めている。(女性よりも14.0ポイント上回っている)さらに特定健診、受診率は全国平均・全道平均よりも低い！！(令和4年全国37.7%、全道29.7%、八雲町21.6%)何故低いのだろうか？「上げる」努力は何をしているのだろうか。</p> <p>今回提案するのは、健診率のアップのために健康診断の受診・各種健康増進の取り組みを数値化しポイントを付与して、そのポイントが町内商店での買い物に利用できるというポイント制だが始めてはどうか。</p>	町長
		3. 商工業者の担い手づくりに本腰を！！	<p>農業分野においては「担い手づくり政策」は整備されている。</p> <p>しかし、農業だけで生き残れるわけではない。</p> <p>商工業においても上手に“担い手”が育っていかなければ“まちづくり”は頓挫してしまう。</p> <p>商工業分野における「担い手」や「チャレンジする次世代」へつなぐ仕組みが何故ないのだろうか。</p>	町長
		4. 「木彫り熊」ブームをもっと大事にしよう	<p>ある意味「外」で火が着き、それを大切にしてきた“民間”があって、今日の「木彫り熊」ブームがあると思う。</p> <p>遅ればせながらも町も「くもはち君のルール」やイベントの後援などで民間を活用して、盛り上げに加わってきてはいるが、町に入ってきた「八雲の木彫り熊」情報を上手に民間と共有できていけなかつたりして『応援してきた町民』や『関わってきた町民』を落胆させている。</p> <p>共に盛り上げ続けられる仕組みづくりをすべきだと思うがいかがか。</p>	教育長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
3	関口正博	1. 地域医療について、より積極的な議論を	<p>八雲総合病院・熊石国保病院はそれぞれの地域において、永年にわたり地域住民の健康と安心を守り続けてきたが、今後さらなる人口減少・少子高齢化が進展する中、医師や医療人材不足等により病院を取り巻く環境や経営はいつそう厳しさを増していく。</p> <p>二つの自治体病院を持つ八雲町が、将来にわたり持続可能な医療提供体制を維持していくためには、地域医療の在り方や病院経営についての認識や問題点をみんなで共有しながら、時間をかけた多面的な議論が必要である。</p> <p>① 北渡島檜山医療圏人口の減少が急速に進む中、医療圏地域センター病院である八雲総合病院を現状の規模のまま維持していくことは困難であり、病床数の削減等による規模縮小は避けられないと考えるが、このことについて検討や検証はされているか。</p> <p>② 医療・介護人材の不足は、今後の地域医療の大きな課題であるが、限られた人的資源で、医療・介護サービスを効率的に提供するための仕組みづくりや、施設間の医療職の人的交流を促進し、医療圏地域全体で医療・介護人材確保を行っていくため、将来を見据えた地域医療連携推進法人を設立することは有効ではないか。</p>	町長

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
4	佐 藤 智 子	<p>1. 投票率を上げるために</p> <p>2. 町長の特定政策事業、見直す考えは？</p>	<p>先般の衆議院選挙の投票率をどう、とらえているか。投票率を上げるために新たな手立てが必要ではないか。以下の項目について伺う。</p> <p>(1) 各施設・病院の投票状況 老人施設入所者や病院の入院患者の投票は、どのようになされているか。広報や立会人の体制は十分か、投票率は把握されているか伺う。</p> <p>(2) 巡回投票の提案 道内の総選挙における投票所数は2012年の2782箇所から2024年の2526箇所と1割減少している。投票時間の繰り上げは150市町村で行われている。これらの中にわが町も含まれており、高齢者や障がいのある方は投票しづらい状況となっている。上八雲への移動投票は実施されているが指定した場所まで行けない人もいるのではないか。 士幌町では昨年から高齢、障がい等の理由で投票所までの移動が困難な方のために（事前に申込みをした方）車の移動投票所が、自宅前まで来て投票できるようにしている。 わが町も選挙管理委員会が立会人と一緒に投票箱を持って車に乗り、施設や自宅など要望のある場所に行き投票してもらう形式を検討すべきではないか。</p> <p>(3) 期日前投票場所の拡充について 上八雲の移動投票所の他に、総合病院駐車場内や八雲高校敷地内で同様に移動投票車による期日前投票を実施してはどうか。</p> <p>町長は青年舎、サーモン養殖と新しい事業を次々と手掛けてきた。しかし、今は収益が上がる段階ではなく、特に青年舎は研修牧場という当初の目的から離れているのではないか。 これらの事業が軌道に乗らぬうちに、企業誘致において多額の出資金及び建設費補助を支出するのはいかがなものか。 今後の収入減、支出増が予測されることは町長も認識されていると思う。 よって、企業誘致において出資金及び建設費補助については上限を設け、抑制的な対応をすべきではないか。</p>	<p>選管委員長</p> <p>町 長</p>

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
		3. 新役場庁舎は、 シンプルな方が…	<p>旧国立病院の解体が進み、いよいよ新庁舎建設に進む時期となってきた。今年度予算には実施設計業務 8,136 万円が計上されている。この段階においては、もう引き返すことはできないのだろうか。</p> <p>何人かの町民と話すと現在の新庁舎デザインに対し不満の声が多い。私自身もあの屋根は雪の多い八雲町にはふさわしくないと思っている。除雪やつらら対策など余計な仕事が増えるのではないだろうか。あのデザインでは老朽化が激しく、補修経費が莫大にかかることになるだろうと、全国各地の同様建築物での問題表面化が警鐘を鳴らしている。</p> <p>今後、財政状況が厳しくなることは目に見えているので、これまでと同じ設計で進むのは困難ではないか。八雲町民が望むのは利用しやすくシンプルな役場庁舎だと思うが、町長の考えを伺う。</p>	町 長

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
5	横 田 喜 世 志	<p>1. 八雲町大型獣解体処理施設について</p> <p>2. 町補助金の在り方について</p>	<p>平成 31 年 3 月の予算委員会において、八雲町大型獣解体処理施設整備事業に対してのジビエの考えはないかの質疑で、当時は捕獲頭数などの課題があり難しい状況の答弁がありました。</p> <p>また、本年第 2 回定例会でも、倉地議員の一般質問に対してのやり取りの中で、町側から「様々な課題がある」との答弁もありましたが、例年、相当数の捕獲頭数があることなどから、食肉の活用策として、少しでもハンターの収入源になるような仕組みづくりを目指し、ジビエ化の事業に向け町が主体的に施設整備や運営ができる人材として協力隊などを登用する考えがないか見解を伺う。</p> <p>本年 9 月の決算特別委員会で、鉛川観光施設改修事業の質疑において、基本実施設計資料一式の提出要求がされ、これについては町発注事業のため町から提出されたが、鉛川レクリエーション施設老朽化対策事業では、解体工事基本実施設計資料一式及び温泉施設改築工事基本実施設計資料一式は、町補助金を受けて民間事業者が発注していることから、現物は民間事業者が所有し、町は設計図面の目次の写しを保管し、実績報告書の中身を精査した中で補助金を確定し、補助金請求書を受け、支払ったことを証明する書類を提出してもらうことで完了したとの答弁だった。</p> <p>そこで、補助指令書に付されている条件に基づき情報公開条例により 9 月 11 日に担当課へ請求したが、事業中止となったことから既に処分したと事業者の回答であったため、情報不存在通知書が 9 月 25 日に手渡された。</p> <p>現行では、文書保存するルールとなっていないが、決算が認定されるかどうか分からない段階で、関係書類を処分するのはいかなるものか。</p> <p>今後、補助事業者に対し適切に文書保存を行うようルール改正が必要なのではないか。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
6	倉地清子	1. 災害から命と財産を守るためにするべきこと	<p>政府は令和6年11月1日、「防災庁」設置に向け、準備室を立ち上げ、令和8年度中の設置を目指しているところ。</p> <p>11月9日には災害時に設置する避難所の環境改善に向け、全国の自治体に対し、水洗式の便器を備えた移動式のトイレやキッチンカーなどの防災備蓄品の導入費用を補助する方針を固めた。</p> <p>また、民間が所有するトレーラーハウスなどの資材を把握するためのデータベースの創設や自治体が保有する備蓄品を調査・公表することで事前の備えを重視し、平時での支援を広げる動きがある。</p> <p>(1) 今年度から八雲町では危機対策課が立ち上がり、平時での備えや災害時対策についての意識向上に向けて地域防災マスター認定研修会を行いました。</p> <p>また、町民向けの防災ワークショップなどを開催し、共助を高める取り組みをしているところです。</p> <p>今後、八雲町は国の動向を見つつ、防災をどのように展開していくのかを伺います。</p> <p>(2) 災害時における町民への情報伝達をどのようにしていくのかを伺います。</p>	町長

順序	氏名	質問事項	質問要旨	答弁者
7	赤井 睦美	<p>1. 八雲町も是非「健康経営宣言」を！</p> <p>2. 任期 12 年の総括は？</p>	<p>職員が心も身体も健康に過ごし、一人ひとりの力が十分に発揮できる職場環境を作ることも、トップの大切な仕事だと思います。今回提案する「健康経営」とは、「職員の健康保持・増進の取り組みが、将来的に収益性などを高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること」をいい、自治体においても「健康経営」の視点を取り入れることで、質の高い市民サービスの提供や効率的な行政運営につながることを期待されています。</p> <p>すでに取り組んでいる自治体の中で八雲に近い苫小牧市の例を見ると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イクボス宣言 ・ テレワークや時差出勤制度の導入 ・ パワーナップ（昼食後の積極的仮眠）制度の導入をしているそうです。 <p>八雲町でも是非、職員皆様の意見をしっかりと聞きながら、『健康経営宣言』をすべきと考えますが、町長のお考えをお伺いします。</p> <p>町長も町議も残りの任期が1年を切りました。岩村町長におかれましては、任期 12 年トップセールスマンとして、全国を飛び回り、特に産業に全力で取り組んできたことは、町民誰もが感じているところです。しかし、最近示された厳しい財政試算を見ると、今は大きなプロジェクトに着手するタイミングではないと思いますし、もう本来のあるべき行政の姿に戻すべきときではないかと私は思います。町長はこれまでの政策推進における総括をどのように判断されているのか、お伺いします。</p>	<p>町長</p> <p>町長</p>

順序	氏 名	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
8	大久保建一	<p>1. 災害時における共助をどう促していくのか</p> <p>2. 今後の町財政の見通しや事業の考え方について</p>	<p>近年、これまで想定してきた規模を上回る災害が多く発生しています。八雲町においても、そんな災害に備え令和6年度から危機対策課を新設し備えています。</p> <p>しかし、被災時においては自治体職員だけでは賄いきれるわけもなく、また職員も被災者になっていることも当然考えられることから、住民同士の「共助」が不可欠になると、考えられています。</p> <p>八雲町の災害時における「共助」をどのようにしていくのか、またその人材をどう育成・確保していくのか、考えを伺う。</p> <p>令和6年10月臨時町議会後の全員協議会で、現在のふるさと応援寄附金の状況や、今後の財政見込みが示されました。また、11月総務経済常任委員会の場でも令和7年度で終了する事業として、U・Iターン補助金の報告を受けました。</p> <p>この事業については多くの議員が、大変良い事業だとして存続を望む声を上げていましたが今後の財政のひっ迫を予想し終了したいとのことです。</p> <p>近年の八雲町は、ふるさと応援寄附金の好調を背景として、大型事業が続いてきました。</p> <p>その中には、不確定な未来への投資的事業も多くあったと感じています。</p> <p>ひっ迫する財政を前に、町民のために行っていくべき事業とは何なのか、町長の考えを伺う。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>